



## 第八卷第九號

香々

### 無心の感化

和田 織子

樹木の嫩なる時は、殊に其の培養に注意し、曲れるは矯め不用なるは折り、出來得る限りの力を盡してよき花を咲かせ、又實を結ばせたいと誰しも希望いたします。兒を育つるも亦同じ理で何れの親も吾子に立身出世させ幸福を得させたいと望む所でありますが、父母たる者如何程注意して其の子供を養育すればとて、周囲の人々育兒の心得なき時は、折角の心盡しも、水の泡となり却て、膾炙には無形の怪我をなましむる事となりす。

私は、表題の一部分につき、少しばかり思ふ事を記し、愛讀諸姉の御批評を願ひます。

私の知己の家に、年齢僅か七才と五才との男兒がありまして、家内は老母と兩親と、年若き叔母と該兒等との水入らずの樂しき生活がなすつ居ります。其の兩親の老母に盡す孝養は、實に到れり盡せりて、衣服飲食起臥動靜其他百般の事親か見習ひ、老母を大切にす。此家につき感しました事は、其の子供等二人とも兩分は、必らず老母にすゝめ、すゝむること能はざる者は、必らず見せしむるを常とし、僅かの小言も、老母の名をかきれば、忽ち、なほすといふ風で、老人を勞はる風は、他人の私までも大に喜ばしく感しました。

尙一つ思付ましたのは、其家の叔母が大部漢籍に委しいので、來客の人々に向ひ常に漢語を交へて應接いたし、時々耳障りに感ずる事がありました。果して、其兒は如何せう、兄は、一二年前より其詞を覺え、年齢不相應に、漢語を交へて談話をいたします様になりました。

今前記二つの事柄を考えますに、前なるは、周囲の人々の生きた模範によりて、適當なる感化を受け斯る望ましき効果の表はれ、周囲の人に反し、後なるは、別に考もなく育て居るので、これは、家庭教育上大に注意すべき事と思ひます。

此時代には、摸する力強く、判する力の弱き者です。周囲の人々は、假令幼兒に對して云ふのではなくとも、傍に在る時は、何時ともなく感染し、事柄によりては、洗ひ去る事の難きに至る者です。故に、子供を世話する人々は、先づ自分から省みる事が大切ではありませぬか。